

鬼退治したくない桃太郎

昔むかし、あるところに桃太郎という男の子がいました。桃太郎の住む村では、鬼が畑を荒らし、村人たちが大切に育てたスイカを盗んでいくため、村人たちは腹を立てていました。そこで桃太郎は仲間とともに鬼退治に行くことになったのですが、本当は戦いたくありません。そんな様子を察した仲間が「戦いたくないのなら、話をしに行こう」と持ちかけます。そんなとき、突然キャシーと名乗る妖精が現れて「ホーポノポノ」という話し合いの手法を提案してきました。



ホーポノポノによる話し合いのポイント

- 1 みんなが集まって話し合う
- 2 みんなの話を聞く人を司会にする
- 3 そのケンカで何が起こったか事実を話す
- 4 どうしてそういうことをしたのか話す
- 5 自分の悪かったと思うことを話す

ホーポノポノとは、**喧嘩を仲裁する際に用いられる方法です。ホーポノポノは、喧嘩をした張本人だけではなく争いに関係している人全てが一堂に会し、直接胸の内を明かしながら問題解決を図ります。**キャシーからその話を聞いた桃太郎は、さっそく村人と鬼を集めます。

輪になって座り、まずは自己紹介をして、お互いを知り合うことから始めます。
次に、その喧嘩で何が起こったのかを一人一人が話します。
そして、どうしてそういう行動をとったのか理由を話します。



やがて話題はスイカの話に。ある鬼は言いました。「あのスイカは、てっきり自然になっているものかと思った。あそこが畑だとは知らなかったんだ。僕はわざと他人のものを盗んだりしない」と。鬼は悪意から畑を荒らしていると思っていた村人は驚きます。

そして、村人は鬼にも家族がおり、その家族のために食べ物が必要だったことも知りました。村人たちは、理由を聞かずに石を投げて追い出そうとしたことを謝ります。鬼も知らなかったとは言え、村人が大切に育てていた畑を荒らしてしまったことを謝ります。一人一人、自らの過ちを反省しました。

対立している村人と鬼が、直接話すことで、これまで抱いていた相手に対するイメージや、前提としていた知識、思い込みを見直すことができ、誤解もとけました。

そしてある村人が「昨年の大雨で、岩が川の流れを止めてしまって。作物に水を与えるのがさらに大変になった」と話すと、鬼は「なんだ。あんな岩も動かさないのか」と立ち上がり川へ行き、岩をどかします。これまでせき止められていた川の流れが元に戻り、村人たちは大喜び。鬼も笑ってこう言います



「他にも力仕事があれば、俺らに言ってくれよ」

こうして憎しみ合っていた関係が、話し合いを経て一変しました。

それから鬼と人間は、お互いに助け合いながら、その後も仲良く暮らしました。